

二〇二一年九月三日
〇五日
発行刷



第94巻 第5号 史学・地理学・考古学

論 説

- 慈善医療の商業化とスキャンダルイズム……………高 林 陽 展 (1)
——ホロウェイ・サナトリウム精神病院を中心に——
- 植民地朝鮮における離婚訴訟と朝鮮民事令……………吉 川 絢 子 (41)
——一九一〇年代を中心に——
- 建国大学における地理学者とその活動……………柴 田 陽 一 (69)
——宮川善造を中心に——

書 評

- 渡邊英幸著『古代<中華>観念の形成』……………榎 山 明 (103)
- 富永望著『象徴天皇制の形成と定着』……………河 西 秀 哉 (110)

紹 介

- ジュディス・ヘリン著 (井上浩一監訳、足立広明・
中谷功治・根津由喜夫・高田良太訳)
『ビザンツ 驚くべき中世帝国』……………上 柿 智 生 (117)

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

読者はまた各章の主題相互の関係性をも自ずと感得し、ビザンツ世界の全体像を描くことができるだろう。それにゆえに本書は、現在日本でビザンツ史研究の主翼を担う訳者陣による非常にこなれた訳文とあいまつて、一般向け書籍としては圧倒的ともいえる情報量にもかかわらず、ビザンツ帝国の歴史に馴染みのない読者にとつても十分通読できるものとなっている。

また著者は、ビザンツ帝国千年の歴史を周辺世界との関わりにおいて明らかにしようと試みるとともに、ビザンツ帝国と現代社会との関わりにも意識を向けている。

「ヴェネツィアとフォーク」の章ではイタリア都市国家を始めとする西欧との経済的・文化的摩擦に言及しつつ、現代になおも残存するビザンツ帝国へのネガティブなイメージの淵源を探っている。加えて終章において著者は現代の教皇ベネディクト十六世によるマヌエル二世（位一三九一—四二五）の著作の断章取義を批判しつつ、イスラーム勢力との長い対立と交流の歴史から培われた帝国の柔軟な態度を強調することで、ビザンツ帝国をそれに纏わりついたイメージも含めて再考することの必要性

を訴えている。

著者が冒頭で述べるように、ビザンツ帝国の歴史を陰謀と柔弱、あるいは絶大な皇帝権と溢れる富、そして劇的なエピソードの連なりに還元することが不可能なのはもはや言うまでもないだろう。「ビザンツ文明を支えていた構造や心性を明らかにし」、またその文明が「他の文明には見られないほど、粘り強くかつ巧みに、伝統や遺産を融合させたことに気付いてほしい」との意図で書かれた本書によって、多くの人がこの活力あふれた文明の全体像に触れることを願いたい。

（A5版 四六九頁 二〇一〇年一〇月）

白水社 税別四四〇〇円

（上柿智生 京都大学大学院文学研究科博士後期課程）

受贈誌

（二〇一一年三月七日）
（二〇一一年五月九日）

待兼山論叢 文化動態論篇（大阪大学大学院文学研究科） 四四

経済論集（ソウル大学校経済研究所） 四九

—四—

皇學館大學史料編纂所報（皇學館大學史料編纂所） 二二九

九州国際大学経営経済論集（九州国際大学経済学会） 一七一—二

京都大学人文科学研究所共同研究資料叢刊（京都大学人文科学研究所） 八

斯道文庫論集（斯道文庫） 四五

史學雜誌（史學會（東京大学文学部内）） 二〇一—二

一橋研究（一橋大学大学院一橋研究編集委員会） 三五—四（通巻一六九）

経済論叢別冊 調査と研究（京都大学経済学会） 三六

アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所） 三三—七

美術研究（東京文化財研究所） 四〇—二

史學雜誌（史學會（東京大学文学部内））

- 一一〇—三
東アジア人情報研究センター 東方學資料叢刊一九
- 立命館文学（立命館大学人文学会）六一〇
經濟論究（九州大学大学院經濟学会）一一三
九
- 史学研究集録（國學院大學日本史學專攻大学院会）三六
書 圖像蒐成（代表 西上 実）XII
駁台史學（駁台史学会）一四一
東洋學文献類目（京都大学人文科学研究所附屬漢學情報研究センター）二〇〇八年
度
- 紀要 史學（中央大学文学部）五六
立命館法學（立命館大学法学会）三三三三・三三三四上卷
立命館法學（立命館大学法学会）三三三三・三三三四中卷
立命館法學（立命館大学法学会）三三三三・三三三四下卷
- 立命館文学（立命館大学人文学会）六一九
經濟科学（名古屋大学大学院經濟学研究科）五八一—四
史迹と美術（史迹美術同致会）八一—三
- 神道宗教（神道宗教学会）二一八
古代文化（古代學協會）六二—四
史窓（京都女子大学史学会）六八
東洋大学文学部紀要（東洋大学）六四史学科篇三六
アジア文化研究所研究年報（東洋大学アジア文化研究所）四五
考古學報（中国社会科学考古学研究所）二〇—一—一
社会学年誌（早稻田社会学会）五二
東洋文化（東京大学東洋文化研究所）九一
關学西洋史論集（關学西洋史研究会）XXXIV
法政史論（法政大学大学院日本史学会）三
五
法政史論（法政大学大学院日本史学会）三
六
人文地理（人文地理学会）六三—一
人文學報（京都大学人文科学研究所）CI
山口大學文學會志（山口大学文学会）六一
帝京史學（帝京大学文学部史学科）二六
埋藏文化財調査年報—国庫補助事業対象分—（太子町教育委員会）平成二一年度
國立臺灣大學 考古人類學刊（國立臺灣大學大学院人類學系）七二
- アジア研究所所報（亜細亞大学アジア研究所）一四二
神戸薬科大学研究論集 Libra（神戸薬科大学教養課程共同研究室）一一
日本歴史（日本歴史学会）七五六
ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of THE ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN) 一一九—一
栃木県立図書館だより（栃木県立図書館）四九
信濃（信濃史学会）六三—四
東洋史研究（東洋史研究会）六九—四
オリエント（日本オリエント学会）五三—二
専修大学史紀要（専修大学 大学史資料課）三
エネルギー史研究—石炭を中心として—（九州大学記録資料館産業經濟資料部門）二六
石炭研究資料叢書（九州大学記録資料館産業經濟資料部門）三三
韓國民族文化（釜山大學校韓國民族文化研究所）三八
韓國民族文化（釜山大學校韓國民族文化研

究所) 三九

美術研究(東京文化財研究所) 四〇三

駿台史學(駿台史学会) 一四二

藝林(藝林會) 六〇一

立命館文學(立命館大学人文学会) 六二二

栃木史學(國學院大學栃木短期大学史学

会) 二五

国東半島莊園村落遺跡詳細分布調査概報

(大分県立歴史博物館) 豊後国山香郷二

長崎大学教育学部社会科学叢書(長崎大学

教育学部) 七三

専修大学大学院社会知性開発研究センター

／東アジア世界史研究センター年報(専

修大学大学院社会知性開発研究セン

ター) 五

松本市史研究(松本市) 二二

史學(三田史学会) 八〇一

西洋史學報(広島大学西洋史学研究室) 三

八

正倉院紀要(宮内庁正倉院事務所) 三三三

年報近現代史研究(近現代史研究会) 三

福島県立博物館紀要(福島県立博物館) 二

五

社会経済史学(社会経済史学会) 七六一三

日本塩業の研究(日本塩業研究会) 三二

紹介

史観(早稲田大学史学会) 一六四

大倉山論集(大倉精神文化研究所) 五七

大東文化大学漢学会誌(大東文化大学漢学

会) 五〇

専修史学(専修大学歴史学会) 五〇

東アジア研究(大阪経済法科大学アジア研

究所) 五四

編集後記

本号の編集作業を行っている最中に、ロンドンで若者を中心とした暴動が勃発したというニュースが飛び込んできました。二年前に実際に訪れ、この目で見てきたロンドン郊外の街並が、暴徒の襲撃によって破壊・略奪されていく映像には絶句するしかありませんでした。

さて、年初のエジプト騒乱の時と同様に、ロンドンの若者達はソーシャル・ネットワークキング・サーブिसを利用して情報の共有を計っていたそうです。また、日本にいる私に、暴動の状況をいち早く知らせてくれたのは、大手メディアではなく、現地の友人達からのFacebookを通じてメッセージでした。こうした側面は、二世紀の暴動の新たな特徴を象徴していると言

えるでしょう。その一方で、警官の発砲に端を発した暴動の拡大を、警察がうまくコントロール出来ない様子を見てみると、一九世紀の組織発足以降、ロンドンの首都警察が伝統的に抱えてきた「弱点」が露呈したようにも思います。

ネットワークの発達を基盤とするグローバル化の進展と、ローカルな文脈に特異な歴史的要因の交錯を今回のロンドン暴動に感じ、歴史研究を行う事の意義について改めて考えさせられました。(藤井)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenyukai.jp/index.html>

二〇一一年九月二五日印刷
二〇一一年九月三〇日発行

定価一、二〇〇円
史林 第九巻第五号(通巻第四八九号)

京都市左京区吉田本町京都大学文学研究科内

電話 〇七五 七五三一 二七八七
FAX 〇七五 七五三一 二七八七

発行人 史学研究会
振替京都 〇一〇七〇 二一五 一五五番

理事長 夫馬進

印刷所 中村印刷株式会社
京都市南区上鳥羽藤田二九

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCIV No. 5

September 2011

CONTENTS

Articles :

- TAKABAYASHI Akinobu, Commercialization of Charitable Medicine
and Medical Scandal Mongering: With Particular Reference to
Holloway Sanatorium (1)
- YOSHIKAWA Ayako, A Study of Divorce Suits and the Chōsen Civil Affairs
Ordinance in Colonial Korea: Focusing on the 1910's (41)
- SHIBATA Yoichi, The Geographers at Kenkoku University in Manchukuo
and their Activities: With a Focus on Zenzō Miyakawa (69)

Book reviews :

- WATANABE Hideyuki, *Formation of the Concept of the Sinocentrism in
Ancient China* (MOMIYAMA Akira) (103)
- TOMINAGA Nozomu, *The Formation and Establishment of the Symbolic
Emperor System* (KAWANISHI Hideya) (110)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 1,200円(税込)

ISSN 0386-9369